

電事連会長 定例会見要旨  
(2008年11月21日)

会長の森です。よろしくお願いたします。

本日私からは、「エコキュートの累計出荷台数 150 万台突破」と、「この冬の電力需給の見直し」の2点についてご報告いたしたいと思ひます。

## 1. エコキュートの累計出荷台数 150 万台突破について

来月1日からポーランドでCOP14が開かれます。来年のCOP15で結論を出すことになっている「京都議定書後の枠組みづくり」に向けて活発な議論が行われるものと思ひます。

繰り返し申しあげておりますが、低炭素社会を実現するためには、供給サイドからの取り組みに加えて、需要サイドにおけるエネルギー消費の効率化、すなわち省エネルギーを一段と進める必要があります。

その切り札となるのが、わが国の先進技術で、消費電力の3~4倍以上もの熱エネルギーを取り出すことができるヒートポンプであります。

この技術を活用した製品の中でも、とりわけ、私どもがその普及拡大に力を注いでいるのが、従来型の給湯器に比べてCO2排出を大幅に削減できる「エコキュート」です。

資料1をご覧ください。

エコキュートは7年前の2001年に発売を開始いたしましたが、先月末で、これまでの累計出荷台数が152万9千台となり、150万台の大台を突破いたしました。

100万台を突破したのは昨年9月でしたので、この1年間だけで新たに50万台ご採用いただいたこととなります。

また、資料の2頁の中段に最近の出荷台数を記載しておりますが、直近の7~9月は28.8%増の13万3,132台となり、四半期としては過去最高の出荷台数になりました。

エコキュートの評価が高まり、着実に普及が進んでいることを実感しております。

このように出荷台数が年々伸びている背景には、国の補助金制度の導入など官民一体となって普及拡大に努めていることに加えて、地球環境問題への関心の高まりや、ご家庭のエネルギーコストや省エネルギーに対する意識の高まりがあると考えております。

ちなみに、エコキュート150万台のCO2排出抑制量は、東京23区の約4倍の面積の森林が吸収する量に相当する約90万トンと試算しています。

先月開かれました「経済財政諮問会議」においても、「世界をリードする低炭素社会の実現やエネルギー安全保障の観点から、エコキュートなどへの買い替えを促すインセンティブ措置の導入が重要」との意見が出されましたが、私ども電力業界は、引き続き国と一体となって普及拡大に努め、2020年度までに累計1,000万台をめざしてまいりたいと考えております。

さて、わが国では、先月から「排出量取引の国内統合市場の試行的実施」がスタートし、あわせて「国内クレジット制度」も始まりました。

国内クレジット制度とは、中小企業などが大企業等から技術や資金等の提供を受けて CO2 削減を行い、そこから生まれるクレジットを自主行動計画などの目標達成に活用する制度です。その際の有効な削減方法の一つとしてヒートポンプが位置づけられています。

今月 7 日には、この制度に基づき、中国電力と東京電力が「第 1 弾・申請受付事業」として、それぞれ国に申請をいたしました。内容は、化石燃料で熱を作っていた病院や温泉施設に新たにヒートポンプ機器を導入するというものです。

今年 5 月にまとめられた「エネルギー白書」にもあるとおり、仮にヒートポンプが民生部門の空調・給湯需要や、産業部門の加熱や乾燥工程などに普及した場合、日本全体の CO2 排出量の 1 割に相当する 1.3 億トンもの CO2 削減効果があると試算されています。

私ども電力業界は、このように大きな CO2 削減ポテンシャルを持つヒートポンプを活用して、今後、中小企業等の CO2 削減にも積極的に貢献してまいりたいと考えております。

なお、海外とりわけ欧州においても、再生可能エネルギーである地中熱や空気熱を活用するヒートポンプに大きな注目が集まっております。

エネルギー・環境問題の解決策について IEA がまとめた報告書「エネルギー技術展望 2008」の解説パンフレットでは、ヒートポンプを建物分野における CO2 削減のキーテクノロジーとして位置づけています。

## 2. この冬の電力需給の見通しについて

つぎに、この冬の電力需給の見通しについてご報告いたします。資料 2 をご覧ください。

気象庁の予報によりますと、今年の冬は、上段のグラフにあるとおり、多くの地域で「平年並」か「高め」の気温になる確率が高いとのこと。

こうした状況も踏まえて、私どもは、中段の表にあるとおり、この冬の 10 社計の最大電力について 1 億 6,034 万 kW と想定いたしました。

対する供給力は、1 億 8,603 万 kW 程度を確保し、その結果、予備率は 16%を見込んでおります。

昨年冬は、10 社計の最大電力で過去の記録を 4 回、日電力量を 6 回も更新いたしました。厳寒期には、わずか 1 気温が下がっただけで、全国の電力需要は、原子力 2 基分に相当する約 210 万 kW も増加いたします。

さらに、予想を上回る厳しい寒波の到来や、発電所の不測のトラブルがないとも限りません。各社とも、気を引き締めて、密接に連携をとりながら安定供給に努めてまいり所存です。

私からは以上です。

2008年11月21日

電気事業連合会

社団法人日本冷凍空調工業会

財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター

## 家庭用 自然冷媒(CO<sub>2</sub>)ヒートポンプ給湯機「エコキュート」の 累計出荷台数150万台突破について

電気事業連合会および社団法人日本冷凍空調工業会、財団法人ヒートポンプ・蓄熱センターは、家庭用自然冷媒(CO<sub>2</sub>)ヒートポンプ給湯機「エコキュート」の普及拡大に積極的に取り組んでおりますが、本年10月末現在で累計出荷台数が150万台を突破(約152万9千台)しましたのでお知らせいたします。

「エコキュート」は、空気中の熱エネルギーを集めて活用する省エネルギー技術「ヒートポンプ」を導入し、家庭で消費するエネルギーの約1/3を占める「給湯」分野において、大幅なエネルギー消費の抑制を可能にしました。2001年に世界で初めて商品化されて以来、現在では、給湯専用機種に加え、床暖房なども行うことができる多機能機種や寒冷地対応機種など、お客さまのニーズを踏まえた様々な特長を持つ機器を製品化いたしました。その結果、2007年9月には累計出荷台数が100万台を突破し、その後約1年間で50万台を出荷するなど急速に伸びております。

なお、本年10月までに出荷された「エコキュート」150万台によるCO<sub>2</sub>排出抑制効果は、従来型給湯器と比較して約90万t-CO<sub>2</sub>と試算しており、地球温暖化防止にも高い効果があると考えております。

電気事業連合会では、低炭素社会の実現に向けた電気事業の取り組みの一環として、電気の需要面における「エネルギー消費の効率化」を推進しておりますが、「エコキュート」については官民一体となって2020年度までに1,000万台の普及を目指してまいります。

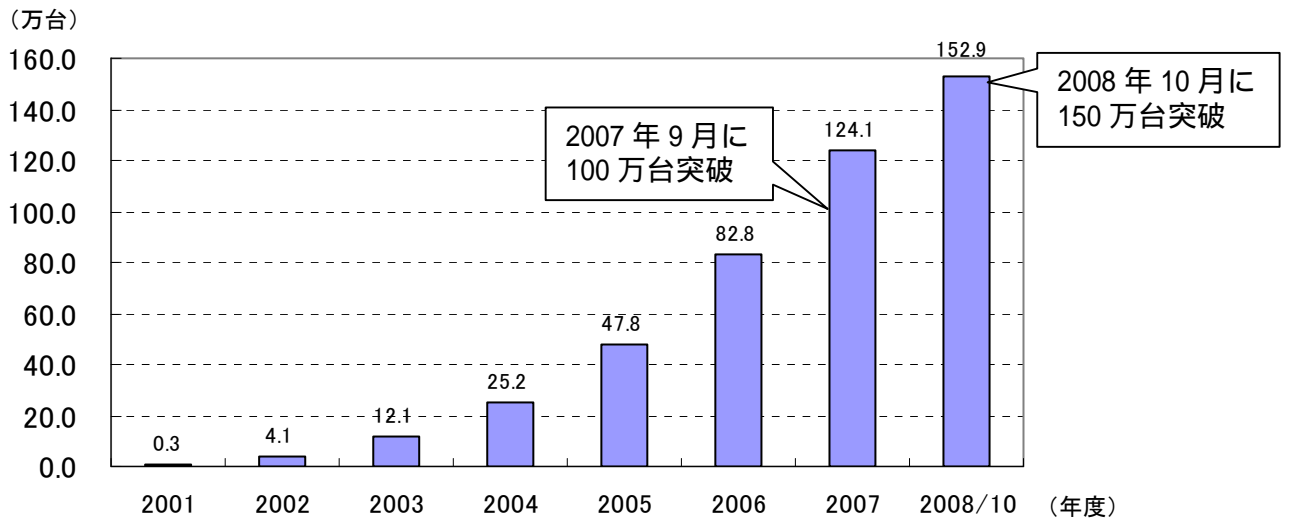
今後とも3団体は、高い省エネルギー性・環境性を有しており、地球温暖化対策へ大きな貢献ができる「エコキュート」の普及促進に引き続き努めてまいります。

- \* 「エコキュート」の名称は、電力会社・給湯機メーカーが自然冷媒CO<sub>2</sub>ヒートポンプ式給湯機のアピールとして使用しているものです。

### <お問い合わせ先>

電気事業連合会 広報部	中山、仲田	03-3279-2182
社団法人日本冷凍空調工業会 企画部	松本	03-3432-1671
財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター 業務部	石田、渡辺	03-5643-2402

### 1. エコキュートの累計出荷台数



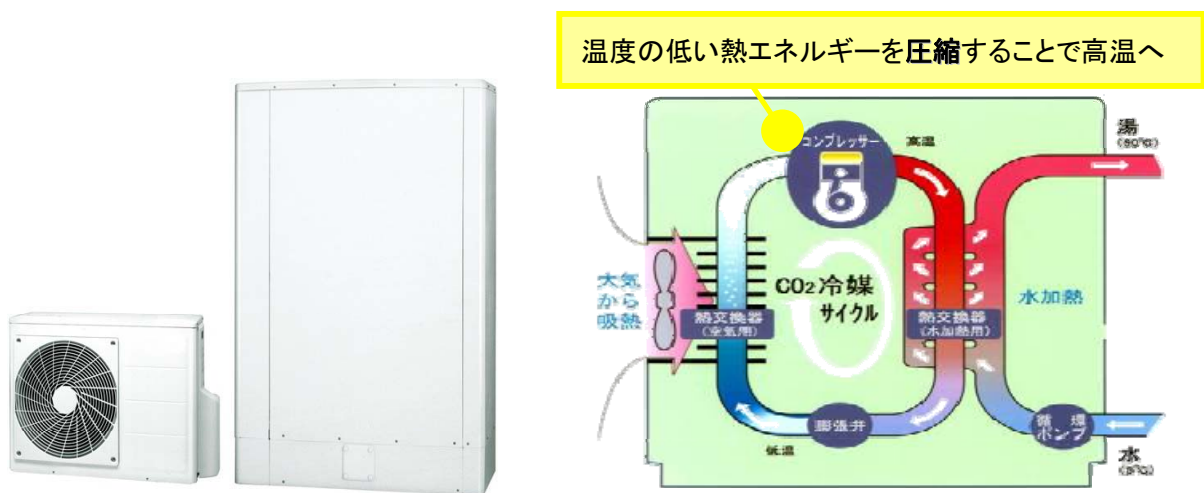
### 2. 最近のヒートポンプ出荷台数と対前年伸び率 (四半期ごと)

(単位：台)

	2007年度 第3四半期	2007年度 第4四半期	2008年度 第1四半期	2008年度 第2四半期
出荷台数 (対前年伸び率)	107,841 (111.1%)	110,742 (114.7%)	111,596 (122.4%)	133,132 (128.8%)

### 3. エコキュートの仕組み

「エコキュート」はヒートポンプの原理を利用した給湯システム。空気の熱を熱交換器でCO<sub>2</sub>冷媒に集め、その冷媒を圧縮機でさらに高温にして、お湯を沸かす仕組み。空気の熱を上手に活用するため、投入した電気エネルギーの3～4倍以上の熱エネルギーを得ることができ、これにより高い省エネルギー性・環境性が実現できる。



以上

### エコキュートのCO<sub>2</sub>排出削減効果

「エコキュート」150万台によるCO<sub>2</sub>排出削減効果を試算すると約90万t-CO<sub>2</sub>（年間）であり、東京23区の約4倍の面積（約2,667km<sup>2</sup>）の森林が吸収する量に相当する。

#### <試算条件>

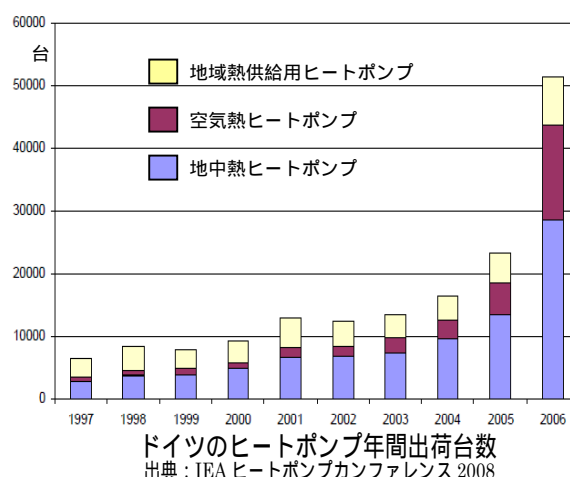
- ・従来型給湯器（ガス瞬間式、石油瞬間式、電気温水器）からエコキュートに切り替えた場合との前提。【給湯量：IBEC-Lモードを適用。外気温・入水温は地域に応じた条件を適用。機器効率：従来型80%～90%、エコキュートは300Lフルオートタイプでの試算（東京電力採用値）ベース。CO<sub>2</sub>排出原単位：温対法に基づく値を採用。森林のCO<sub>2</sub>吸収量：3.6t-CO<sub>2</sub>/年・ha。】

### エコキュート導入補助金制度

「エコキュート」を住宅等に設置する方に対し、その購入費用の一部として補助金（42,000円/台）を交付する制度。年4期に分けて、各期とも先着順で受付。

### 欧州におけるヒートポンプを巡る最近の動向

- ・現在、欧州ではヒートポンプを再生可能エネルギーとして政策的に推進する動きが盛んである。2007年に欧州委員会では、2020年までにエネルギー消費全体に占める再生可能エネルギーの割合を20%（2005年実績は6.7%）とする目標を設定した。
- ・これを受けて2008年1月に欧州委員会が提案した「再生可能エネルギー推進に関する新EU指令」案では、「地中熱ヒートポンプ」および「一定以上の効率性を有する空気熱ヒートポンプ」が供給する熱を再生可能エネルギーとして扱うことが明示された。
- ・国別で見ると、フランス・イギリス・スウェーデン・ノルウェーなどでも再生可能エネルギー利用技術にヒートポンプを含めて普及促進させるための政策が議論されている。
- ・ドイツでは環境・自然保護・原子力安全省が発行した『再生可能エネルギー（2006）』において、ヒートポンプが利用する地中・水・空気熱は太陽起源の「再生可能エネルギー」と位置づけている。2008年7月には「再生可能エネルギー熱法」が成立し、ヒートポンプを再生可能エネルギーと定義した上で、新築建物における再生可能エネルギーによる熱利用を一定の割合で義務付けた（2009年1月に施行予定）。

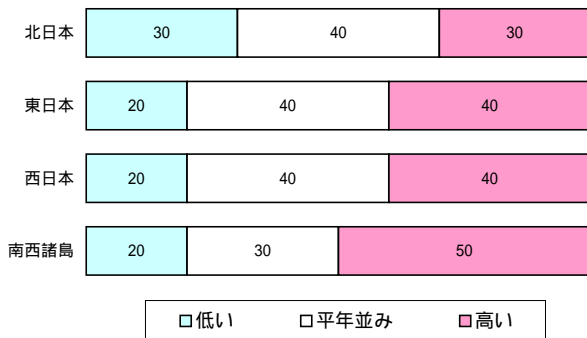


## 今冬の電力需給の見通しについて

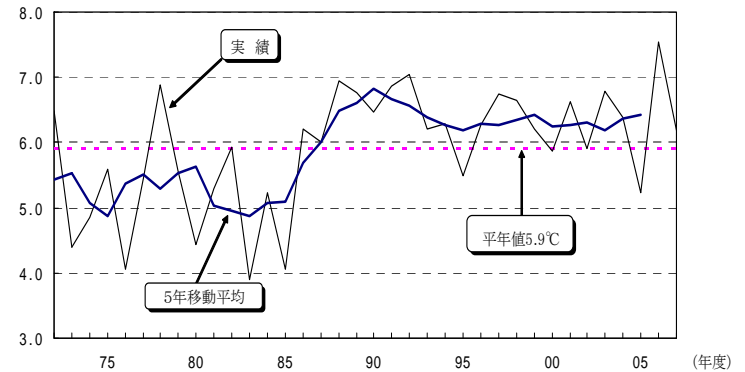
### 1. 今冬(12月～2月)の気象見通し

気象庁から発表された今冬の気象予報によると、平均気温は、東日本、西日本で「平年並」「高い」確率がともに40%、南西諸島では「高い」確率が50%の予想となっている。

今冬(12～2月)の平均気温の確率予報



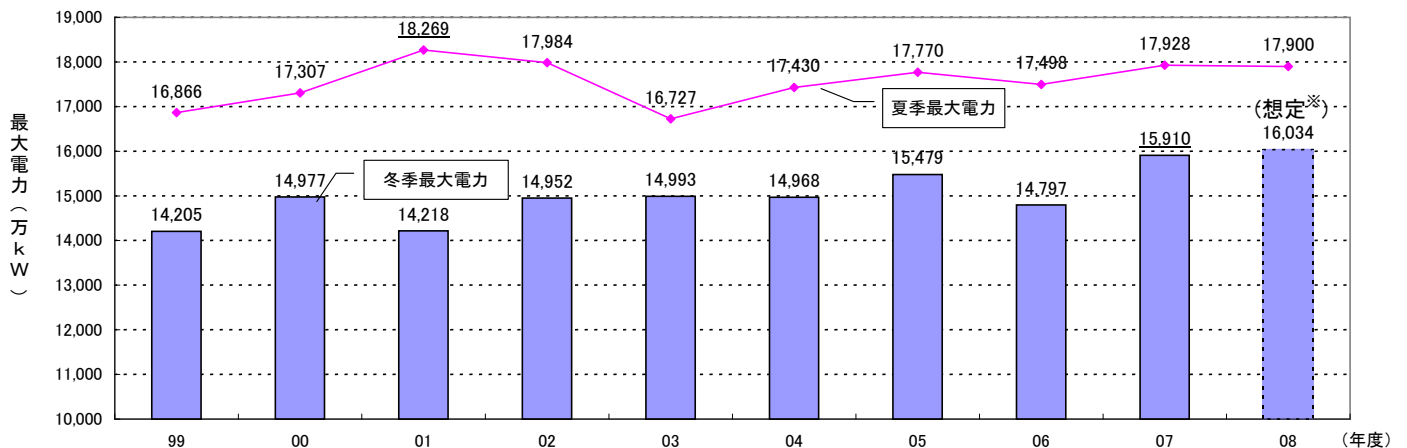
( ) 冬期(12～2月)の10都市単純平均気温の推移



### 2. 今冬の最大電力予想と供給力(発電端10社合計)

最大電力(A)	1億6,034万kW
供給力(B)	1億8,603万kW
供給予備力(C) = (B) - (A)	2,569万kW
供給予備率(D) = (C) / (A)	16.0%

### 3. 最近の最大電力の推移



	99年度	00年度	01年度	02年度	03年度	04年度	05年度	06年度	07年度	08年度
発生日	1月27日	1月15日	12月21日	1月29日	1月22日	2月1日	12月19日	1月11日	2月13日	-
最大電力 (万kW)	14,205	14,977	14,218	14,952	14,993	14,968	15,479	14,797	15,910 (過去最大)	16,034
対前年増加量 (万kW)	23	772	759	734	41	25	511	682	1,113	124
対前年伸び率 (%)	0.2	5.4	5.1	5.2	0.3	0.2	3.4	4.4	7.5	0.8

※ 07年度までの実績値は発電端1日最大、08年度冬季最大電力の想定値は発電端3日平均